

# ヨコハマタイヤマニュファクチャリング(タイ)CSRレポート

**事業内容:** トラック・バス用タイヤ、小型トラック用タイヤ、乗用車用タイヤの生産・販売  
**敷地面積:** 418,029m<sup>2</sup> (工場)、1,690,000m<sup>2</sup> (テストコース)  
**従業員:** 1,493人 (2010年3月末現在)  
**所在地:** 7/216 Moo.6, Amata City Industrial Estate, Tambol Mapyangporn, Amphur Pluakdang, Rayong Province 21140, Thailand  
**TEL:** +66(38)650-350



## 社長ご挨拶



水本 康博

ヨコハマタイヤ・マニュファクチャリング・タイランドは首都バンコクから東南へ120km離れたライヨン県のアマタシティ工業団地内に位置しています。敷地は横浜ゴムグループの工場でも最大の面積をもっており、トラック・バス用と乗用車・ライトトラック用のタイヤを生産し、市場の要求によって小規模一貫生産工場を順次拡大しています。当工場では、タイヤの品質を決める重要な工程の一つである混練工程において、新工法を採用し、効率的に高品質なコンパウンドの生産を実現しています。将来的には当社グループ最大の海外総合タイヤ生産拠点になるべく、環境貢献タイヤの生産を拡大していきます。

ISO14001認証取得(2007年7月)以来、従業員の環境活動に対する認識が深まり、2009年12月には廃棄物の埋立て処分量を1%未満にするゼロエミッションを達成しました。2010年度は埋立て処分量をゼロにする完全ゼロエミッションを達成すべく、分別リサイクルを徹底

し、スパイラルアップさせています。

また、温室効果ガス削減に向けての省エネ活動はタイ国・エネルギー省の指導も受けながら、さらに活動を強化しています。従業員一人一人がエネルギーの重要性を再認識するために、日本と同じ様に2月を省エネルギー月間とし、全員であらゆるムダ・ロスを徹底的に排除する活動を展開することにより、環境対応生産の支えとしています。地域貢献活動としては、近隣の小学校での環境教育の支援、アルミや紙などの飲料容器のリサイクルのための収集活動、タイ国海軍の港の防波のための廃タイヤの活用などを行なってきました。2008年に第一歩を踏み出した「YOKOHAMA千年の杜」づくりは、地域住民と従業員、その家族を中心に現在までに12,000本の植樹を行いました。タイ国における樹木の成長は著しく、既に「杜」の様相を呈する程です。今年には国際生物多様性の日に合わせて、約8,000本の植樹を行う計画です。環境マネジメントシステムの遂行とともにコンプライアンス、リスクマネジメントなどの取り組みを強化し、最新鋭の設備とタイ人の能力を最大限に引き出し、GD100におけるトップレベルの環境貢献企業を目指して、環境活動に取り組んでいきます。

## 環境への取り組み

### 2010年度環境方針

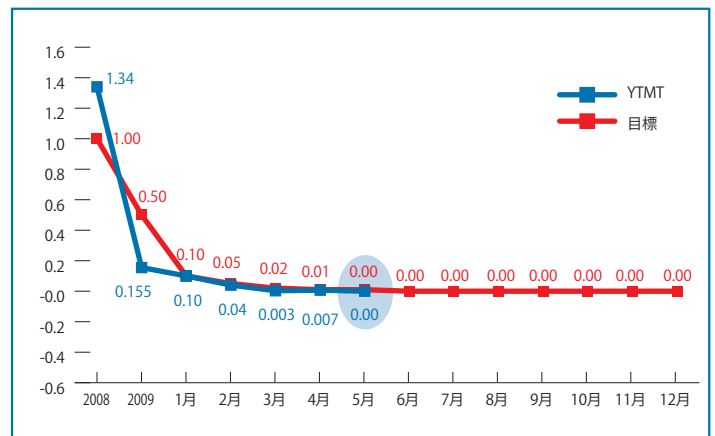
- (1) 全ての事業活動において環境に配慮します。
- (2) 環境マネジメントシステムを構築、強化し、継続的な改良活動、最良の技術的、経済的実行可能な解決策によって、各種汚染(大気、水質、廃棄物)の防止策を施行させます。
- (3) 廃棄物管理目標を設定し実施します。そのために省エネルギーと省資源、廃棄物削減とリサイクル、年間環境プログラムの検証を行います。
- (4) 法律、行政指導、そのほかの環境規制に従います。
- (5) 全従業員が本方針を理解し、行動するよう、全社的環境情報、教育、訓練プログラムを全従業員に提供します。
- (6) 社会環境保全に貢献することで地域社会との共生を目指します。
- (7) 本方針は地域に公開します。

### 環境データ (年度は1月～12月)

項目	2007年度	2008年度	2009年度	
廃棄物発生量(t)	1,791	1,579	1,794	
埋立率(%)	—	1.3	0.2	
エネルギー使用量 (原油換算:千k)	電力	15.8	17.6	18.6
	燃料	5.2	6.0	6.7
	合計	21.0	23.6	25.3
温室効果ガス排出量(千t-CO <sub>2</sub> )	44.6	50.1	53.7	
水使用量(千m <sup>3</sup> )	391	516	586	
有機溶剤排出量(t)	—	31	17.5	

※2008年度より温室効果ガス排出量の算定は、日本の環境省・経済産業省発行の温室効果ガス排出量算定・報告マニュアルを使用。

### 廃棄物埋め立て率の推移



### 廃棄物削減の取り組み

2009年度は、通年でゼロエミッションを達成しました。2010年度は、完全ゼロエミッションに挑戦しています。

## 環境への取り組み

### 再資源化推進の取り組み

再資源化を推進するため、次のような活動を行っています。

1. 課別のごみ分別収集
2. シリカゲルの100%回収

3. ベルトスクラップ分別収集
4. ボイラー供給水浄化剤の回収
5. 粉薬飛散防止
6. カーボン屑やソープストーン、GIP、オイル、バフ粉など回収

## 安全への取り組み

### 労働安全衛生

各設備のリスクアセスメント評価、改善、再評価により150件の安全対策を実施しました。

### 安全衛生基本理念

安全衛生はすべての基本である  
管理者と監督者の強力なリーダーシップと  
全従業員の協力のもとに労働災害防止と快適な職場づくりを目指す

### 安全衛生方針

- (1) 危害を与えない設備、職場づくりを目指す。
- (2) 管理者・監督者は不安全状態・行動を見逃すことなく部下の安全を守る責務を負う。
- (3) 職場の一人ひとは職場の決め事を確実に守り、安全に徹した作業を行う。
- (4) 労働安全衛生法を始め関係する諸法令を遵守するとともに、社内規定・基準に基づき従業員の安全を確保する。
- (5) “整理・整頓は安全衛生の基本である”との考えをもとに2Sを徹底する。
- (6) 従業員の疲労やストレスを軽減するため、快適な職場環境の形成を促進する。
- (7) 工場幹部による声掛け運動で良好なコミュニケーションをつくる。
- (8) 安全衛生教育、諸活動を実施し、安全衛生意識の向上を図ると共に、協力会社へも安全衛生方針を表明し、協力を要請する。

## 地域とのコミュニケーション

### これまでに寄せられた主なご意見と対応内容

臭気対策に取り組み、2008年8件に対し2009年1件となりました。地域住民の皆さまに安心していただけるよう改善を進めます。

対応については、YRC環境関係規則と環境についてのコミュニケーション標準書(RP-S-08)に従い対応しています。

#### <取り組み内容>

- (1) 工場周辺の臭気観測
- (2) 設備排気の成分を調査
- (3) 生産方法および設備の改良
- (4) お客さま説明会の実施

社会・環境貢献の基本方針に沿って、地域社会とのコミュニケーションを定期的実施しています。

### 地域への公園建設

マーバンポン地域住民の皆さまとともに、200m<sup>2</sup>の公園(遊園地)を建設しました。2009年11月には、この遊園地建設に対しアープサップ地域からコミュニティー支援表彰をいただきました。



### 寺院への寄付

2009年10月、従業員からの募金をマーバンポン寺の本堂建設に寄贈しました。



### 環境教育支援

政府の環境広報活動に参加し小学生への教育冊子の定期刊行を支援しました。2009年1月には、子どもの日活動に参加し、地域の学校の学生に奨学金を贈呈しました。



### アルミ屑リサイクル

2009年6月、車椅子や義足の材料となるアルミ屑167kgを財団に寄贈しました。また、2009年11月には、ラヨン県の赤十字社の年中行事と、地域お寺のローイカトン祭りを開催するために支援金を寄贈しました。



## 紙パック屑リサイクル

2009年5月、机や文具の材料となる飲料用紙パック屑40.9kgを回収し  
地元学校へ寄贈しました。



2009年8月12日、海外生産拠点としては初めての第2期植樹を実施しました。当日は従業員とその家族に加え、宮脇昭氏(植物生態学者/横浜国立大学名誉教授)とともにタイでの植樹を指導するシリム・ゲオライヤット博士(タイ宮内庁勤務/横浜国立大学で博士号取得)夫妻や地域住民の皆さま、地元小学校の生徒、ヨコハマタイヤマニューファクチャリング(タイ)のあるアマタシ工業団地の企業の方々などおよそ1,100人が参加し、26樹種、約5,000本を植樹しました。

### 参加従業員の声: Wora-anong Doungkratoke

泥まみれになりながらも植樹活動を楽しんでいる地域の方の姿をみて、積極的に参加したいと思うようになりました。一企業の小さな取り組みですが、世界に同様の活動が広がれば環境は改善できると信じています。

